

## 特別養護老人ホームの入所の緊急性に影響する要因の分析

岸田<sup>キシダ</sup> 研作<sup>ケンサク</sup>\* 谷垣<sup>タニザキ</sup> 静子<sup>シズコ</sup><sup>2\*</sup>

**目的** 介護保険導入後における特別養護老人ホームの入所の緊急性に影響する要因を明らかにすること。

**方法** 対象は、中国地方の2つの市に在住する在宅介護を継続する同居世帯である。特別養護老人ホームの入所の緊急性の指標は、世帯が入所申請をしていない場合に0、入所申請をしている場合は、世帯を担当するケアマネジャーが「将来、必要になったときに入所したらよい」と判断した場合は1、「しばらくは待つことができる」と判断した場合は2、「できるだけ早く入所した方がよい」と判断した場合は3をとる。推定は、緊急性の指標を従属変数、在宅介護の継続に影響すると考えられる個人・世帯属性を独立変数とする順序ロジットモデルである。推定では、従属変数のカテゴリーによって係数が異なる可能性を考慮した。

**成績** 必要な変数に欠損値がなく分析対象になったのは、146の入所申請世帯と494の非入所申請世帯であった（計640世帯）。入所申請者間でもケアマネジャーが判断する適切な入所時期には差があり、「できるだけ早く入所したほうがよい」(29%),「しばらくは待つことができる」(32%),「将来、必要になったときに入所すればよい」(39%)であった。多変量解析の結果、入所の緊急性が高いことと有意に関連していたのは、要介護度が高いこと、主介護者の自覚症状数、家族が介護に消極的であること、A市在住、持ち家以外であること、事業者都合によるショートステイの利用制限、であった。

**考察** 入所の緊急性については、入所申請の有無のみならず、入所申請者間の緊急性の差も考慮すべきである。入所の緊急性が高いことと有意に関連していたのは、要介護度が高いこと、主介護者の自覚症状数、家族が介護に消極的であること、A市在住、持ち家以外であること、事業者都合によるショートステイの利用制限、であった。

**Key words** : 特別養護老人ホーム, 入所, ケアマネジャー, 介護保険, 要介護老人

\* 岡山大学大学院社会文化科学研究科

<sup>2\*</sup> 岡山大学大学院保健学研究科

〒700-8530 岡山市津島中3-1-1

岡山大学大学院社会文化科学研究科 岸田研作